

堀ノ内 やくよけ祖師 妙法寺

【交通】 地下鉄丸ノ内線東高円寺駅下車徒歩15分
阿佐ヶ谷駅南口より渋谷駅行きバス
新宿駅西口より駒沢陸橋行・新代田駅行きバス
※何れも堀の内バス停下車徒歩3分



祖師堂

江戸時代の元和年間（1615～23）に開創された妙法寺は、「厄除け祖師」や、「堀ノ内のお祖師様」として知られる名刹です。江戸時代から江戸近郊の行楽地でもあり、その繁栄ぶりは「浅草の観世音に並べり」と『武蔵名勝図会』（文化3年刊：1821）に記されています。また当時の川柳に詠まれ、浮世絵にも描かれ、落語や洒落本の舞台としても取り上げられるなど、江戸の庶民に親しまれていました。現在、妙法寺には、国の重要文化財の鉄門など今回紹介する建造物の他、都指定文化財の麻布油絵日蓮聖人像や、区指定文化財の舞楽図屏風など多くの貴重な文化財があります。

仁王門と祖師堂

＜都指定有形文化財＞

入口の仁王門は、2階建ての大きく軒を張り出した楼門で、天明7年（1787）に建立されました。当初門の左右には、現在祖師堂に安置されている広目天・増長天像がありました。現在の仁王像は、四代将軍家綱が山王社（現日枝神社：千代田区永田町）に寄進したとされるもので、堀ノ内村が山王社の社領であったことから、明治元年に当寺に伝わったといわれています。



仁王門



江戸自慢三十六景 堀之内
（杉並区立郷土博物館蔵）

祖師堂は、妙法寺の中で最大規模の建物です。文化8年（1811）に建立され、厄除けの祖師像（日蓮像）が安置されています。この祖師像はもとは碑文谷の法華寺（現円融寺：目黒区碑文谷）にあったもので、元禄5年（1692）に移されたといわれています。

将軍が訪れた書院（御成間）＜都指定有形文化財＞

堀ノ内村は、江戸時代には将軍の鷹場に含まれていました。将軍が鷹狩をする際は、寺社などが御膳所・御小休所に使用されました。妙法寺は、文化14年（1817）に11代将軍家斉が御膳所として使用しています。12代将軍の家慶や、御三卿の田安・一橋の当主も訪れています。最後の将軍慶喜も一橋当主の頃にこの書院を訪れ、太神楽を上覧しています。

将軍が座る場所は一段高くなっており、天井・床の間・腰障子には狩野派の絵師による障壁画が描かれています。



御成の間

ジョサイア・コンドル設計による鉄門

＜国指定重要文化財＞

妙法寺の多くの木造建築群の中で一際異彩を放つのが鉄門です。铸铁製の和洋折衷様式のもので、扉上に鳳凰を配し、柱頭には男女の童子が立っており、門扉などには古代ギリシアやローマで装飾として用いられたアンカンザスの草の文様が施された色彩鮮やかなものです。これは、明治11年（1878）に、工部大学校（東京大学工学部の前身）の御雇教師であったジョサイア・コンドルの設計で造られました。コンドルは鹿鳴館・ニコライ堂などの設計者でもあり、日本の近代建築に大きな影響を与えた人物です。



鉄門

【問い合わせ先】 杉並区教育委員会事務局社会教育スポーツ課
電話 03-3312-2111（内線1667）